

# いま改めて考えよう 地層処分

崎田裕子

ジャーナリスト・環境カウンセラー

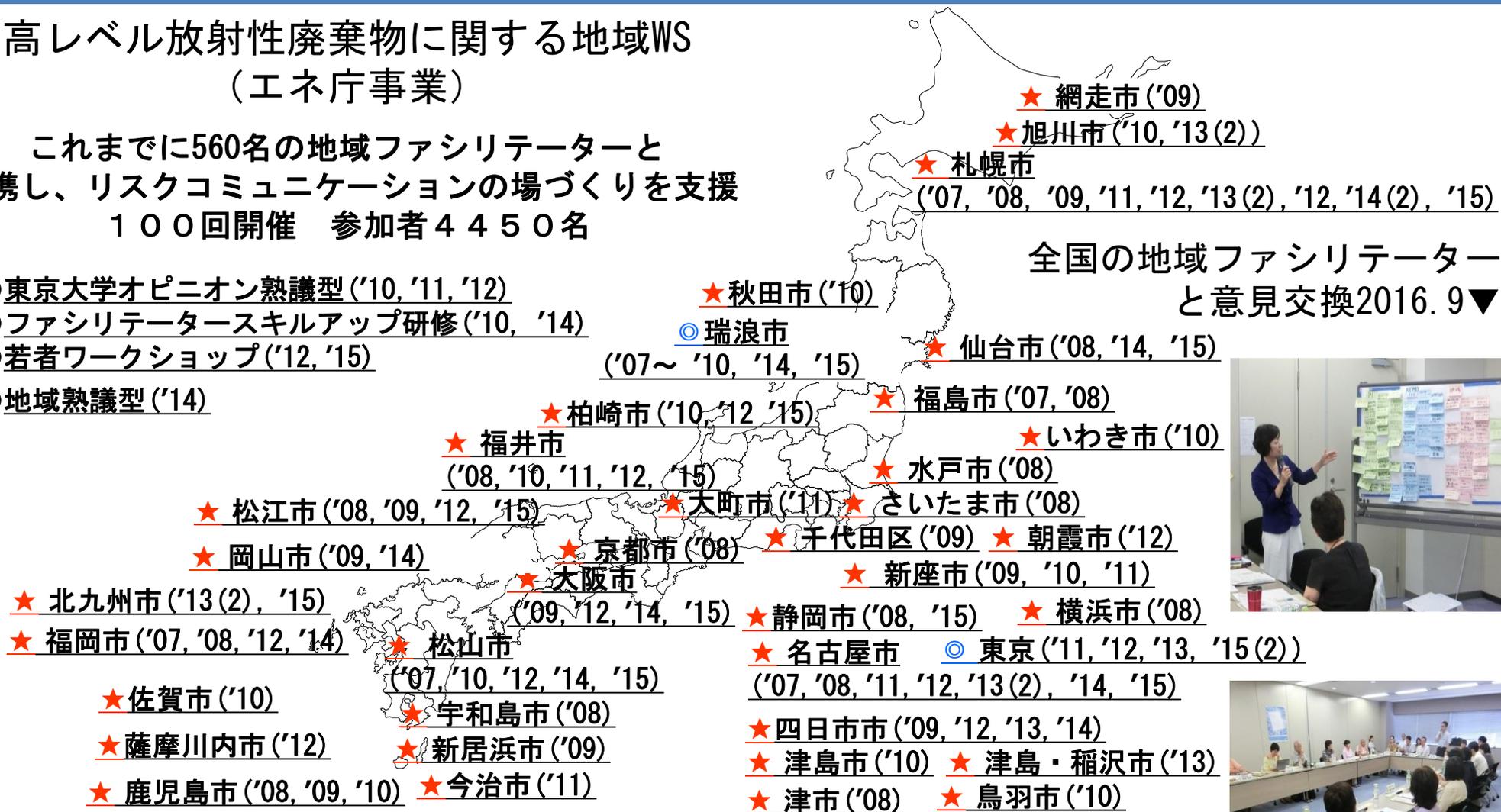
NPO法人持続可能な社会を作る元気ネット理事長

# 2007年以来全国で地域ワークショップの開催を支援 学び合いの大切さを共有する「地域ファシリテーター」との連携

## 高レベル放射性廃棄物に関する地域WS (エネルギー事業)

これまでに560名の地域ファシリテーターと  
連携し、リスクコミュニケーションの場づくりを支援  
100回開催 参加者4450名

- 東京大学オピニオン熟議型('10, '11, '12)
- ファシリテータースキルアップ研修('10, '14)
- 若者ワークショップ('12, '15)
- 地域熟議型('14)



全国の地域ファシリテーター  
と意見交換2016.9 ▼



資料：NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット作成資料

2015年度までの状況（2016年3月末現在）

◎：全体会議開催回数 ( )：開催年度

エネルギー事業に協力 運営担当：持続可能な社会をつくる元気ネット

# 地域WSのコミュニケーションからの学び

- 特に「安全神話崩壊」以降～安全ですと言われることへの反発
- 安全に向けて真剣に努力しているか？その姿を「信頼」できるか？



- わかりやすい「情報」～技術情報だけでなくプロセス情報が重要  
→一方通行の政策紹介では心に届かない
- 「対話」の大切さ～不安・疑問に寄り添い、質疑応答を尽くす
- 地域の方々の「参加」～
  - ・多様な地域活動を行っている方がファシリテーターとして参加
  - ・全国で、開催地の状況を踏まえて地域WSを開催



# 全国の地域WS参加者の主な質問・意見

- なぜ地層処分なのか。他に選択肢はないのか？
- 技術は確立しているのか？ 地震国日本で地下は安全か？
- 情報が殆どなく、初めて知った。なぜ教育で触れないのか？
- エネルギーの将来像と一緒に考えないといけないのでは？
- 海外で候補地を絞っている国はあるのか？どう決めたのか？
  
- 調査地の選定段階で、地域の意見は本当に生かされるのか？
- 自分の住む地域の将来に、自分の意見を言う機会があるのか？
- 原発立地地域のWS：消費地は自分事と思わないのでは？
- 消費地でのWS：人口密度の低い地域に作ってほしい
  
- 科学的有望地の提示は地域への押し付けになるのでは？

# 100年かかる事業だからこそ次世代と共に 私たち世代の責任。次世代に伝える責任。

## 学生の方々と共に学び合う大切さ

- 海外で受け入れた地域の方々はどう考えているのか知りたい
- メリット・デメリット両方の情報を明確にした対話が重要
- 地域の将来を見据えた産業おこしが必要

# マップ提示されたらどうしたらいいのでしょうか？

## 全国各地でぜひ自主的な勉強会を

- 自分の住む地域が何色に分類されていても、この課題に関心を



- マップ提示に際して、電気を使ってきた私たちが自分事として考えられるよう、学びのための情報整備や機会づくりを



- 地域の環境・エネルギーに関心ある団体、社会課題を学びあう団体、地域づくり団体、地域WSファシリテーター経験者の方々は、ぜひ自主的な勉強会の企画・実施を
- 国・NUMOはもちろん、排出事業者の電力会社に期待